



# かみやま

学校教育目標

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>



## 「社会情動的コンピテンシー」を育てる

校長 窪田 剛久

11月12日(水)、横浜市では「インフルエンザ流行警報」が発令されました。今年の夏は非常に気温も高く、残暑も寒暖を繰り返す期間も長く続いたことで、体力を消耗しているそうです。また、猛暑のために外出を控えて運動不足になってしまったことや、夜、寝づらくて睡眠の質が低下していたことなども、消耗の要因になったと言われています。そうした要因が重なり、今年はインフルエンザの流行が早まったのではないかとのことでした。本校も11月はインフルエンザの流行に影響を受け、多くの子どもが出席停止を余儀なくされました。つい先日まで半袖で過ごしていたと思ったら、急激に気温が下がり、上着なしでは過ごせなくなった日本の「二季化」も原因の一つかもしれません。「体がついていかない」とはよく言ったもので、未だ体調が不安定な児童もいます。暑くなる季節によく使われていた「暑熱順化」という言葉ですが、「寒冷順化」という言葉も報道等で耳にする機会が増えてきました。今後も空調や換気を適切に行い、健康管理に留意していきたいと思えます。

さて、このように気候が数年前とは大きく変動している中、教育界も大きな転換期に入っています。今まで私たちが受けていた教育の中で大切にされていたものに、テストの点数や記録、タイムなどがありました。もちろん今でもそれぞれの子どもの成長を知るうえでそれらの資料はとても大切です。このように点数などで可視化・数値化できる能力を「認知能力」と言います。それに対しここ数年注目されているのは「非認知能力」です。「非認知能力」とは、いわゆる意欲・好奇心など感情や心の動きに関わる能力です。そうした非認知能力が、子どもの成長や学力の伸びとどのように関わっているのかについて、研究が進んでいます。

「非認知能力」がカバーする範囲は大変広いので、国立教育政策研究所では児童生徒の生活や発達に重要である非認知能力、「社会情緒的能力（社会情緒的コンピテンシー）」に関する研究を展開しています。同研究所では「社会情緒的コンピテンシー」を、『「自分と他者・集団との関係に関する社会的適応」及び「心身の健康・成長」につながる行動や態度、そしてまた、それらを可能ならしめる心理的特質』と定義しました。言葉にすると大変難しいですね。私なりに解釈すれば「友だちや家族、クラスなどになじんだり、心や体を健康に保ち成長させたりしようとする行動すること、及び振舞ったりすること。また前向きにしようと思える気持ち」なのかなと思います。「みんなとうまく生活していきたい」「気持ちが明るく、体も健康でいたい」とは皆さん思うことですね。ただ思うだけでなく具体的な行動に移す力や、行動に至らなくてもそこに結び付く振舞いがとれることが重要なのだと思います。ではどのようにすればそうした力は育ち、身に付くのでしょうか。

横浜市では「主体的、対話的で深い学びの中で社会情動的コンピテンシーは育つ」と仮説を立て、研究を進めています。上山小学校では体験的な活動、またそれを実現する中で取り組まれる協働的な学びを大切にしています。その積み重ねのなかで子ども達はコミュニケーション能力を伸ばし、それぞれの活動が円滑に行われるように具体的に行動する力も高めてきました。学校生活を通して「主体的、対話的で深い学び」を積み重ねていると言ってもいいでしょう。

横浜市は学力・学習状況調査で以下の社会情動的コンピテンシーの測定を始めています。

メタ認知	自分の学習状況を把握し、それを踏まえて行動を調整する力
知的好奇心	物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力
知的謙虚さ	自分の意見に謙虚な姿勢を持ち、意見を柔軟に変更する力
共感性	困っている人に共感したり、助けてあげたりする思いやり

上山小学校の実践を通して好奇心や主体性、謙虚さや共感力、人を助けたり自分を伸ばしたりするための行動力が育っていくことを願っています。保護者、地域の皆様にも、子ども達にそういった気持ちや行動が見られた際にはぜひ褒めて、価値付けしてあげてほしいと思います。家庭、地域とまさに協働してかみやまっ子を育てていきたいと思っています。教育界の急激かつ大きな変動にも対応していけるように、私たちは努力を重ねていきます。これからも上山小学校の教育的実践に、ご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。

